

平成27年5月22日発行・発売(毎月22日発行・発売)
第37巻第6号 通算432号
昭和55年3月25日第三種郵便物認可

アスタナ世界選手権代表
23人全員が出揃う!

近代
柔道

Judo

(2015)

6

JUNE

特別定価 940円
ベースボール・マガジン社

[全日本女子選手権]
田知本愛が悲願の初V!

[入門! 一流の技術]
庄司武男6段の
「スライディング体落とし」他

[解体新書Interview]
志々目 徹 [了徳寺学園職]

全日本カデ選手権
全国少年大会
全国高段者大会
ブレーメン国際



特集 全日本選手権

王子谷、七戸を下して

堂々の初優勝!

原沢久喜

Kisayoshi Karasawa



JRA

●決勝・準決勝ハイライト
●大会アラカルト
●全試合リポート
●技術分析

[日本中央競馬会]



↑途上国のコーチ育成を目的に8名のコーチを東海大に招聘してセミナーを開催

柔道を通しての国際外交

アラブ首長国連邦における コーチングセミナー & 途上国のコーチ育成

山下泰裕理事長（全日本柔道連盟副会長）が代表を務めるNPO法人柔道教育ソリダリティーは、法人の設立にあたり3つの目標を掲げている。一つは、国際的な柔道の普及「自他共栄」を実現するために、二つ目は、柔道を通して日本の心を伝え、様々な国の文化交流に役立てたい、そして三つ目は、柔道を通して子供たちをいかに育てていくかということ。この度、NPO法人柔道教育ソリダリティーが開催したコーチングセミナー、指導者講習会の活動を報告する。

東海大学教授・柔道部師範

NPO法人柔道教育ソリダリティー国際担当師範

報告／写真提供 光本健次

アラブ首長国連邦から 支援要請

2014年2月、アブダビ皇太子（実質的なUAE次期大統領）が東海大学に来校し、山下泰裕副学長（スポーツ担当）に柔道を通じたアラブ首長国連邦での青少年教育、また、子どもたちの規律教育のために柔道を学校教育に導入したいとの支援要請がありました。東海大学とアラブ首長国連邦の関係は、ソーラーカー（技術開発）と柔道交流（人材育成）を通して近年急速に深まっています。これは石油減少後の国づくりに危機感を持つアラブ首長国連邦が、ソーラーカーなどを中心とした技術開発、また、柔道交流を通じた人材

育成に高い関心を示しているからです。

2014年4月、アラブ首長国連邦からの要請でアラブ首長国連邦の5つの首長国を訪問し、文化センターや柔道場、教育、柔道関係者、日本大使館職員らと意見交換し、今後における協力・支援についての検討と視察を行いました。

アラブ首長国連邦では2015年9月から15地区の小中学校で柔道を授業に導入する準備を進めていますが、学校教育機関に良い指導者を送り込むところまで至っていないのが現状です。現地では当初より指導者研修会開催の要望が強くあり、2014年10月に、学校教育柔道指導者専門家として練馬区立貫井



↑アラブ首長国連邦で開催した
コーチングセミナー

中学校主幹教諭である高橋健司先生と共にNPO法人柔道教育ソリダリティー主催によるコーチングセミナーを開催しました。

この指導者研修会には7つの首長国から25名程のコーチ陣が参加し、午前・午後の4日間集中して講義（日本柔道の歴史・教育としての柔道・審判理論）、実技（基本動作・安全を考えた各種の受身指導法・練習法・審判法）などを行い、最終日に修了書を授与しました。このアラブ首長国連邦におけるコーチングセミナーの開催は、柔道が教育としてこの国の青少年教育に活かされていく大きな第一歩だと言えるものと確信しています。柔道教育がこの国で定着していくことにより、柔道を通して我が国に対する信頼や理解に繋がるものと期待しています。資源のない日本にとって、石油大国との国際交流は国益のためにも大きな意味を持つものと思われます。



一日
中友好
南京柔
道館は設
立5周年を
迎えた

2020年東京五輪に向けて、途上国のコーチ育成

アラブ首長国連邦から帰国後、2014年11月9日～12月9日までコートジボアール、タンザニア、ラオス、パレスチナ、イスラエル、グアム、アメリカ、中国など8名のコーチを東海大学に招聘しました。

東海大学湘南キャンパス柔道場をメイン会場に、柔道の実技講習会の他、体育学部専門の指導陣によるテーピング指導、スポーツマッサージ、リハビリテーション、メンタルトレーニング法、剣道の体験なども講習内容に含めました。このセミナーは2020年の東京オリンピックに向けて、多くの国や地域から選手が出席できるように、途上国のコーチ育成を目的にNPO法人柔道教育ソリダリティーが開催したものです。また、柔道が生まれた日本の文化や歴史を知ってもらうために、京都と広島を訪れたほか、東京体育館で行われた柔道の世界大会「グランドスラム東京」も視察しました。1ヶ月、日本で研修を受けたコーチは、自分たちの置かれたポジションで頑張ってくれることを願っています。

まだまだ紛争の絶えないイスラエルとパレスチナ問題、平和国家で育った我々には簡単に理解することは難しいことだと思います。研修の最後に、イスラエルとパレスチナの両君は、「みんなと一緒に過ごし、寄りそって生きていく自信が持てた、この種を木に、さらに実がなるように育てていきたい、対立は国の問題で、私たちが対立しているわけではない。いつの日か私たちの子どもたちが、一緒に柔道ができる時代になるようにがんばろう」と言った言葉がとても印象的でした。

柔道を通し、南京と青島で日中友好

また、2015年3月2日から3月11日の期間、中国の南京と青島にNPO法人

柔道教育ソリダリティー主催による指導者研修会及び視察を行いました。指導陣には日本文化大学の濱名智男先生にもご協力いただき、少年指導法や形などを指導いただきました。

南京と青島には山下理事長が仲介の労をとり、日本のODA・草の根無償支援により、南京に日中友好南京柔道館と青島に日中友好青島柔道館が設立されています。しかし残念なことに政治的には、日本と中国の関係はまだまだ近くて遠い国であり、反日感情も根強く、日本企業や大使館・領事館が民衆の暴徒によって破損される事件もたびたびおきている現状があります。この二つの柔道館は単に柔道の技術指導を行うだけの施設ではなく、柔道を通じた交流によって「柔の心」「和の心」「日本の心」を伝えたいという山下理事長の想いが、その根底にあります。両道場には日中両国旗が掲揚されており、嘉納師範の「精力善用」「自他共栄」の言葉も掲げられています。

ここで中心となっている若手指導者は、南京は男性の常東（チャンドン）君と青島は女性の王華（オウカ）さんで、東海大学で日本語や柔道指導法などを学び、また柔道クラブでの研修などを半年間学習してきました。南京の常東君は、帰国後も日本語学校に通い、日本語を忘れないように努力しているそうです。道場は子供たちが掃除して整理整頓が行き届き、挨拶や礼を大切に指導し、私たち日本の指導者にもしっかりと挨拶をしてくれている子どもたちの姿に、反日感情などまったく感じられず、柔道の教育的效果、柔道が持つ国際貢献を強く感じました。両市（南京・青島）では、柔道をすでに正課授業として取り込んでいる小中学校も増えており、短期間で柔道の普及・発展には驚くばかりでした。

今年、日中南京柔道館は設立5周年を迎えましたが、設立当初はわずかな生徒でのスタートでしたが、現在なんと学校教育機関も入れると生徒数は

10000人を超えているでしょう。館長である江蘇省トップの劉俊林先生のご努力はもちろんですが、日本で研修を重ねた常東君が、中国で「教育としての柔道」を広めていきたいとの信念を持ち、それを実践している指導に大変感心しました。

次に訪れた日中友好青島柔道館では、除殿平館長指導のもと、日本で研修を受けた王華さんをはじめ、沢山の若い指導者が柔道の普及・発展のために努力しています。正課として柔道を取り入れている小学校では、「柔道体操」を見せていただきました。この学校では毎朝全校生徒でこの「柔道体操」を行なうそうです。校長先生は「柔道は人格的にも体力的にも人を強くするので、今後更に力を入れていきたい。そして将来は日本の小学校とも交流を持ちたい」と語っており、まさに教育的な柔道の普及とそこから生まれる日中友好の兆しが伺えるような気がしました。

柔道の創始者である嘉納治五郎師範は日清戦争終了後に「宏文学院」という学校をつくり、中国からの留学生を受け入れています。師範の下で学んだ学生の中には、毛澤東に影響を及ぼした親戚の者や、魯迅をはじめ、帰国後に国会議員として祖国のために活躍した人が数多くいます。

法人のスローガンである「柔道・友情・平和」の3つの文字は、柔道を通して世界の人たちが友情を育み、それが平和に続く道のりであることを信じています。



↑日中友好青島柔道館では、除殿平館長指導のもと、沢山の若い指導者が柔道の普及・発展のために努力している